【表具師】

新堀武夫

【現 住 所】かつらぎ町
【生　　年】明治45年

職　　歴

13才の頃から和紙、殊に古沢紙に興味をもち、研究を続ける。

20才の頃から大阪に居を移し、表装技術を習得。

昭和37年、現在地に表具店を開業。

業績の概要

表装には糊炊き、柄合わせ、裏打ち、組立等多くの工程がある。

「そり」、「うき」、「折れ」などの出ない表装をするためには、紙や裂地の性質を十分見極わめなければならず、それぞれに合った糊を作ることが最も大切である。

また、「本紙」に似合う表装に仕上げるための「柄合わせ」も、表具師としての感覚を問われる重要なものである。

氏は、これらの技術の向上のため、今なお研究活動を続け、後進の指導にも尽くされている。

昭和50年からは、高野山霊宝館の古書画の修復にあたり、見事な出来栄えをみせている。

昭和42年から県表具組合副理事長、また、同53年から同組合紀北支部長を務めておられる。